

新人看護師の社会的スキルと技術習得状況の関連性

The relationship between social skills and technical acquisition in novice nurse

西 8 階病棟

岩間真希子 長渡ちづる 堀内妙子 内田緑

〈要旨〉本研究の目的は、新人看護師の社会的スキルと技術習得状況の関連性を明らかにすることである。A病棟に配属となった新人看護師を対象に、社会的スキルの測定尺度である質問紙とA病棟で使用している技術チェックリストを用いて調査を行った。その結果、社会的スキルの総合得点は、7月から10月にかけて有意に上昇した。項目別では、7月から10月にかけて、6分類のスキルすべての平均値が上昇した。その中でも、初歩的なスキルと計画のスキルが有意に上昇した。10月から1月にかけては、初歩的なスキルが低下傾向だった。低下傾向となる時期に、指導者が、新人自身が身につけているスキルをうまく使えるように関わり、指導する必要があると考えた。技術チェックリストは7月から1月にかけて評価4の割合が上昇し、看護技術は経時的に習得できていた。

キーワード：社会的スキル、新人看護師、技術習得

I. はじめに

近年、伝達手段の多様化や核家族化により異なる世代の人と関わる経験が少なくなるなど、社会的背景などにより新人職員の社会性の低下が問題とされている。そのため、金山ら¹⁾青木ら²⁾のように、学生の時期に社会的スキルを身につけるための取り組みが報告されている。当院では毎年60～90名の新人看護師が採用され、病棟には4～6名が配属される。ここ数年現場で指導する際にも、新人看護師のコミュニケーション能力やストレス耐性が低下しているのではないかと感じることもある。また、看護技術の習得についても、ひとつの技術が身に付くまでに時間がかかるようになってきており、多忙な臨床現場で人材育成を行う際の課題となっている。

新人看護師が、働きながら一人前の看護師としての知識・技術・態度を身に付けるためには、先輩看護師の支援が必要である。その際には指導者とのコミュニケーションが不可欠であり、技術習得に時間がかかる現状の要因は、社会的スキルの低下が関連しているのではないかと考えた。

II. 研究目的

社会的スキルの習得と技術習得の傾向を明らかにすることで、よりよい新人教育を実践する

ために本研究に取り組んだ。

用語の定義

本研究において、社会的スキルを「対人関係を円滑に運ぶために役立つスキル」と定義する

III. 研究方法

- 1) 調査対象：201X年4月～201X年4月にA病棟へ就職した新人看護師10名（ 23.3 ± 1.19 歳）。
- 2) 調査方法：調査には社会的スキルの測定尺度である質問紙KiSS-18（Kikuchi's Social Skill Scale 18項目版）³⁾⁴⁾を用い、年3回（7月、10月、1月）実施した。技術習得の状況は、A病棟で使用している心臓カテーテル検査のチェックリストを用い到達度を4段階評価（4：一人でできる 3：経験したが支援が必要 2：見学のみ 1：未経験）した。
- 3) 調査時期：201X年7月～201X年1月
- 4) 分析方法：技術チェックリストの評価点、社会的スキル（KiSS-18）総合点、6分類（初歩的なスキル、高度なスキル、感情処理のスキル、攻撃処理のスキル、ストレス処理のスキル、計画のスキル）について7月、10月、1月の平均値を比較した。分析にはJMPを使用し、 $p < 0.05$ を有意とした。調査時期は、夜勤開始、緊急入院受け入れや救

命救急センターからの患者受け入れ、不穏患者や急性期の重症患者の受け持ちを目標としている時期に設定した。

社会的スキルを包含し簡略化すると、

- ・対人関係を円滑にするため、挨拶や話をする
ことができる初歩的なスキル
- ・他人に上手に手伝ってもらったり、仕事の指示を与えたり、謝ったりする高度なスキル
- ・相手の気持ちを知ったり自分の心の動きに注意が向いたりする、対人関係を円滑にする感情処理のスキル
- ・相手を攻撃したいという気持ちになったりするとき、対人関係を保っていくのに必要な攻撃に代わるスキル
- ・対人関係に伴うストレスによって相手との関係を悪くしないためのストレスを処理するスキル
- ・相手と協力して仕事を進めるための計画のスキル

の6分類となっている。なお、尺度の使用に当たっては開発者から許可を得た。

IV. 倫理的配慮

質問紙調査ではあるが、病棟の新人看護師が対象となるため、強制力が働かないよう研究の目的や方法等は文書で説明し、同意が得られたもののみに実施した。同意が得られた時点で、個人情報管理者が対象者を匿名化し、番号を振り分け個人が特定されないようにした。この番号は個人情報管理者が厳重に保管し、3回行われるアンケートは無記名のまま割り振られた番号で取り扱った。技術チェックリストも同様に匿名化し、個人情報管理者が質問紙調査の結果と技術チェックリストの結果を研究者へ提示し、研究者は結果のみを取り扱った。研究にあたり、信州大学医学部医倫理委員会の承認を得た。

V. 結果

調査時期で比較したところ、社会的スキルの総合得点の平均値は、7月52.9±7.8点、10月58.8±6.5点で、有意に上昇した(図1)。

項目別では、7月から10月にかけて、6分類のスキルすべての平均値が上昇した。中でも、初歩的なスキルと計画のスキルが有意に上昇し

た。10月から1月にかけては、感情のスキルとストレス処理のスキルはやや上昇し、攻撃のスキルと計画のスキルはやや低下、初歩的なスキルが低下する傾向であった(図2)。

技術チェックリストは7月から1月にかけて評価4の割合が54.9%から77.6%へ上昇した(図3)。

VI. 考察

菊池³⁾によると、社会的スキルは訓練により身につけられると言われており、入職後、多くの人と関わり、様々な経験を重ねることで、新人看護師の社会的スキルは経時的に上昇したと推測される。その中でも、初歩的なスキルは対人関係の基本となるスキルであり、入職後、対人関係が構築されたことで有意に上昇したと考える。また、計画のスキルは、夜勤導入により多くの患者を受け持ち、限られたスタッフで対応しなければいけない状況を経験する中で、他者と協力して仕事を進めることができるように

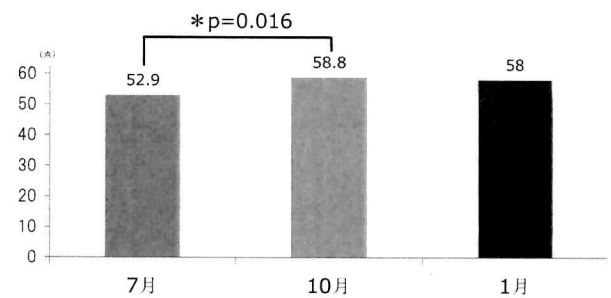


図1 社会的スキル 総合得点の平均値

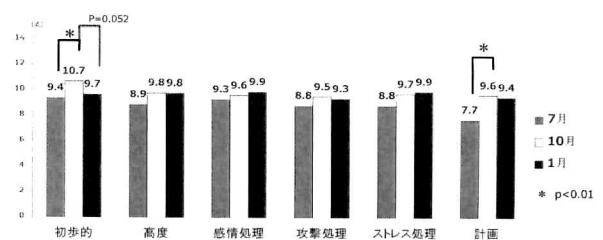


図2 社会的スキル 項目別の平均値

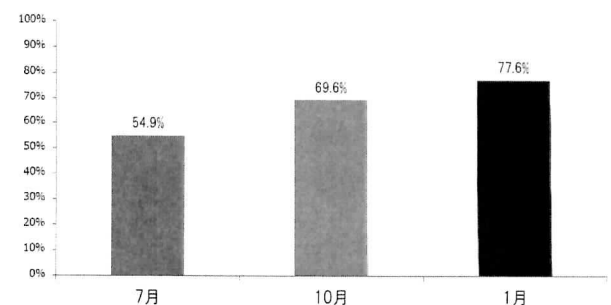


図3 技術チェックリスト 評価4(一人でできる)の場合

なったことが要因で上昇したと考える。

一方で、10月から1月にかけては、初歩的なスキルが低下する傾向であった。10月から1月は、重症患者の受け持ちが開始される時期であり、多職種との関わりが増えたり、重症患者とのコミュニケーションの取り方がわからなかったりすることが要因ではないかと推測される。それまでの経験によりスキルを身につけていても、対象者が変わること、身につけたスキルを状況に合わせて使ったり、他のスキルと組み合わせ合わせて使ったりすることができず低下する傾向となったのではないかと考える。

菊池³⁾によると、社会的スキルは具体的な状況に合わせたスキルであり、実際に行動し、評価されたりまねをしたりすることで身につけられるといわれている。そのことから、看護実践の中で社会的スキルを身につける方法のひとつとしてパートナーラウンドがあると考え。指導者は、パートナーラウンドの中で、新人看護師自身が身につけているスキルをうまく使えるように関わり、状況に合わせてどのように行動したらよいか指導し経験させる必要がある。それにより、新人看護師の社会的スキル習得に繋がると考える。

技術チェックリストは7月から1月にかけて評価4の割合が54.9%から77.6%へ上昇した。増原ら⁵⁾は、看護実践能力は経時的に順次高まる傾向があり、臨床経験の積み重ねにより高まると言っており、本研究でも技術は段階的に習得できていると考えられる。

今回の調査では、対象者が少なく一病棟における調査であるため、一般化するには限界がある。高島ら⁶⁾によると、新人看護師の社会的スキルは就労後6ヶ月までは低下し12ヶ月後になって上昇する傾向があり、6ヶ月以降では社会的スキルと看護実践能力との関連が強くなること、および個人差が拡大することが指摘されており、社会的スキルを含めた対人関係能力を

含めて看護実践能力の成長を促すことが必要と言われている。本研究においても、今後対象者を増やし調査を継続していくことで、社会的スキルと技術習得の関連がでてくる可能性も考えられる。

VII. 結論

- ・社会的スキルは、7月から10月に有意に上昇する。
- ・10月から1月にかけては初歩的スキルが低下する傾向にあり、その時点でのサポートが重要となる。
- ・技術習得は経時的に上昇する傾向にある。

参考文献・引用文献

- 1) 金山元治・小野昌彦・宮城洋平：教職課程に在籍する大学生に対する社会的スキル訓練，奈良教育大学教育学部附属教育実施総合センター（16），p.139-144，2007.
- 2) 青木康太郎・永吉宏英：長期キャンプ体験における参加者の社会的スキルの変容に関する研究～参加者の特性による変容課程の違いに着目して～，野外教育研究6-2:1-12，p.23-34，2003.
- 3) 菊池章夫：さらに/思いやりを科学する，川島書店，p.188-198，2014.
- 4) 菊池章夫：KiSS-18研究ノート，岩手県立大学社会福祉学部紀要，6（2），p.41-51，2004.
- 5) 増原清子・内田宏美・樽井恵美子他：臨床看護師の看護実践能力と社会的スキルの発達，島根大学医学部紀要，第30巻，p.51-57，2007
- 6) 高島直美・樋之津淳子・小池秀子他：新人看護師12ヶ月までの看護実践能力と社会的スキルの習得過程－新人看護師の自己評価による－，日本看護学教育学会誌（13），1-17，2004.